

アコースティックギター編



1 弦

エレキギターよりも若干太いことが特徴。ポピュラーなブロンズ弦の他、より音色にこだわったフォスファールブロンズ弦、やわらかく押さえやすいコンパウンド弦、シルクスチール弦、クラシックギターに用いられるナイロン弦や特殊なコーティングを施して耐久性を高めたコーティング弦などがある

2 トップ

表側の板のことで、表板とも呼ばれる。ブリッジから伝わる弦の振動を共鳴させる重要な部分であるため、サイド、バックよりもやわらかい木材が選ばれる

3 サドル

ブリッジで固定した弦を支えるためのパーツで、弦の高さなどを決める他、弦の振動をブリッジに伝える重要部品

4 エンドピン

ストラップを取り付けるためのピン

5 ブリッジ

サドルが取り付けられている台座のことで、弦の振動をボディに伝える重要なパーツ。素材もさまざま

6 ブリッジピン

弦を張る際、ブリッジに弦を差し込んで、このピンを使って固定する

7 ピックガード

ピッキング時のよるキズを防ぐために、ボディに貼られた板。主にプラスチック製が多く、メーカーによりそのカタチもさまざま

8 サウンドホール

ボディにある穴のこと。ボディ内の共鳴を、外へ放出するためのもので、この部分の大きさなどによって音量や音質が変わる。穴の形状も何種類か存在する

9 ネック

指板が張られた棒状の部分。ギターによって太さや長さ、材質や仕上げが異なっている

10 ナット

それぞれの弦の位置を固定するためのヘッド側の部品。プラスチックや牛の骨、カーボンなどが使われる

11 ポジションマーク

フレットを押さえる際の目安となる印。指板の他、ネック側面にもあしらわれている

12 バインディング

ボディの縁に入れられた装飾。ボディの角を保護するという役割もある

13 サイド

トップとバックをつなぐ側面の板で、側板ともいう。基本的にバックと同じ木材が使われている

14 フレット

指板に取り付けられた金属のバー。音階を決定づけるもので、バーの材質や太さ、高さによっても音色が変わる

15 ペグ

弦を巻き付けてテンションをかけてギターに弦を張るもので、ツマミを回すことでチューニングを行う

ボディ形状もさまざま。

ひとりでアコースティックギターといっても、すべて同じというわけではなく、カタチにも種類がある。見た目だけでなく、音色にも大きく影響を与えるので、それを踏まえて選ぶことが大切だ

(右)ジャンボ

ボディ下部が他モデルよりも大きく、丸いことが特徴。音色も中低音がパワフルだ

(左)ドレッドノート

「マーティン」が生み出した、最も一般的といえる形状。それまであったギターよりも大きく、当時の巨大なイギリス海軍の軍艦「ドレッドノート」の名を冠した。音量も大きいことが特徴



バック

ボディ裏の部分で裏板ともいう。音色で重要となるボディだけに、この材質によって音色も変わってくる